

平成 30 年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日： 2018 年 7 月 27 日

大 学 名： 上越教育大学タイトル： N tube～動画を通して見る世界

1：本ワークショップの要旨

子どもに身近な動画投稿サイトの動画を題材として、世界の現実を知り続けようとする意欲を高める。導入では、県外の学校生活の様子を視聴し、国内でも学校生活に差異があることを知る。また、自分たちの学校生活を振り返り、班毎に短時間の動画作成を行い、自分たちの現実を映像で表現する。結末では、他国の学校生活の様子も視聴し、自国であっても他国であっても差異があることを知り、世界の現実を知り続けようとする意欲を一層高める。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

他の地域の学校生活の様子を知ることで、自国であっても文化や習慣が異なることに気付く力を育む。また、動画作成を通して、自分たちの生活や常識を改めて見つめなおし、異なる文化や習慣に対して、関心を持ち続ける態度を育成することを目的とする。異なる文化や習慣に対して関心を持ち続け、互いに違いを認め合える素地を育むと同時に、他国でも同様に地域ごとに文化や習慣が違うことを認識し、最終的に、世界のことを知り続けようとする意欲を育む。

3：本トピックをとりあげる理由

本トピックを取り上げる理由は以下の2つである。

昨今スマートフォンが普及し、子どもは日々多くの情報に触れるようになった。今までは情報の発信が新聞やテレビといった一部のメディアに限定され、情報に一定のフィルターがかかっていたが、ネットの環境が整備されるにつれ、最新の生の情報を得やすくなった。特に、YOUTUBEなどの動画共有サイトからは短時間で多くの情報を得ることができ、子どもにとって身近な情報源の一つとなっている。また、動画共有サイトは情報の受信だけでなく、発信も行える。例えば、シリア内戦時には政府軍によって情報インフラが遮断されたが、反政府軍はYOUTUBEに戦況報告をアップロードし、国際社会からの支援を訴えるといった事例もあった。動画には非常に大きな影響力があるだけでなく、情報の鮮度も重要であるという点からも、動画投稿サイトにアップロードされている動画を積極的に活用していきたいと考えた。

世界の現実と聞いて思い浮かべるのは、世界の国々の生活の様子について理解を深めることだが、世界に目を向ける前に、まずは自分自身の生活について認識し直す必要がある。日本国内でも、地域によって生活の様子は異なっている。地域レベル、県レベル、国レベルと段階を踏みながら生活を比較することで、世界の現実について実感を伴った理解ができると思われる。

4 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 30人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (15 分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生との顔合わせをする ● 新潟以外の学校の様子 の動画を見る。 ● 動画を見て、気付いた ことを共有する。 ● 活動のめあてを知る。 ● 動画の作成方法について 説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己紹介し、テーマの 説明、活動内容の説明を する。 ● ワークシートを配布する ● 異なる地域の学校生活 (動画、画像資料)を紹介 する。 ● 「動画や画像を見て、皆 さんどんなことに気付いま したか」 ● 子どもの発言を板書する。 ● 「自分たちの生活の当 たり前に注目して、動画 を作ろう。そして違う文 化や習慣に対して関心 を持とう。」 ● 動画作りのルール説明 をする。動画時間、活 動範囲、役割分担、編 集、撮影方法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内レベルで学校生活 に差異があることを認 識する。 ● 同じ動画であっても見 る人によって感じ方が 異なることに気付く。 ● 活動の概略を知り、意 欲的に活動できるように する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート ● 掲示用の模造紙 ● 動画ファイル(群馬 県の学校の様子) ● 画像資料準備(県外 の学校の校則) ● パソコン ● 大型 TV 	<ul style="list-style-type: none"> ● こんなことして る学校があるの。 ● 私たちの学校と 全然違う。 ● 日本の学校って みんな同じだと思 っていた。 ● 面白そうだ。 ● みんなで動画を 作るのは初めて でわくわくする。 ● どんな感じに作 ろうかな

<p>展開：承 (40 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 5つのグループに分かれ、動画のテーマを決める ● 動画の視聴を踏まえて、自分たちの学校生活をどの部分で切り取るか話し合いを行う。 ● 人形を使いながら構成を考える。 ● 動画作りに取り組む (動画時間：30秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループの取り組み状況に応じて、適宜助言、アドバイス等を行い、主体的な活動を促す。 ● 自由な発想を大切にするために、アドバイスは技術面に絞る。 ● 視聴者の想定は各班に任せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報を発信する視点から、自分達の住む地域について改めて理解を深める ● 人形を操作することで具体的な動きを班の全員が理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット ● 人形 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想されるテーマ(学校行事, 掃除, 給食, 校則など) ● どんなことを伝えたらいいのかな。 ● 私たちのあたりまえって何だろう。 ● ここはこうした動きの方がいいよ。 ● こうした方がもっと僕たちの思いが伝わるんじゃないかな。 ● もう一度取り直してみよう。
-------------------------	--	---	--	---	--

<p>発 展 : 転 (20 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 班ごとに作成した映像の見どころや工夫点を紹介し、作成した動画を視聴する。 ● 動画を鑑賞し、意見・感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「工夫した点、頑張った点を教えてください」 ● 作成した動画を上映する。 ● 映像を見ての感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の班の動画から同じ学年で同じような生活をしていても感じ方や表現の仕方に違いがあることに気付く。 ● 新しい情報を得たり、新しい観点物事をとらえ直したりすることの面白さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型テレビ ● タブレット 	<ul style="list-style-type: none"> ● これは今までしなかった。 ● 見方が変わると面白いな。 ● 自分の当たり前っていうのは、他の人にとっては当たり前ではないのかも。 ● もっとほかの地域の事を知りたいな。 ● 外国の生活はどうなっているのだろう。 ● 今の生活と昔の生活って違うのかな。
<p>まとめ : 結 (15 分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 他国の学校生活の動画を視聴する。 ● 本時の活動の感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日本国内でも地域によって違いがありますね。」 ● 「世界に目を向けるとさらに知らないことや違いがあります。動画を見てみましょう。」 ● 「この授業を通して学んだこと、感じたことを発表してください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界レベルで身近なところでの地域差、国を超えた違いがあることを知り、世界の現実を理解する。 ● それぞれの立場で成長があったことを認め、称賛し、成就感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画ファイル (国外の学校の動画 2~3分) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 私たちの学校と全然違う ● 今まで持っていたイメージと違うな。 ● もっと世界の事を知りたいな。 ● 日本ではどんなことが起きているのだろう。 ● 簡単に世界の事を知ることができんだな。

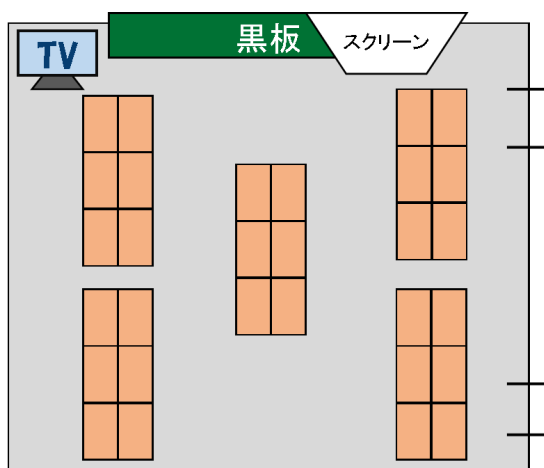
5：会場のセッティング

導入：学級

展開：広いスペースが必要

発展：学級

まとめ：学級



6：使用する教材

- ・ 自作動画
- ・ PowerPoint 資料

7：参考にした資料

- ・ ヘンな校則 ヘンな校則研究会

8：その他

撮影に使用できる場所，設備(大型 TV，延長コード)を事前に確認する